

## 松平容保所用

### 煙草盆・提重・重硯箱

会津藩最後の藩主、松平容保は幕末の激動を生きた人物として、歴代藩主のうち最も名の知れた人物ではないでしょうか。その容保ゆかりの品が、博物館にもいくつか収蔵してあります。



紫檀時絵煙草盆

「紫檀時絵煙草盆」は、抽斗付の箱の上に煙草の火種を入れておく火入れと煙草の吸い殻を叩き落とす灰吹をはめ込んだ、盆というよりは箆箆に近い煙草盆です。紫檀の木肌に金箔も用いた時絵の美しい、全体に能に関する意匠を散りばめた趣のある煙草盆です。

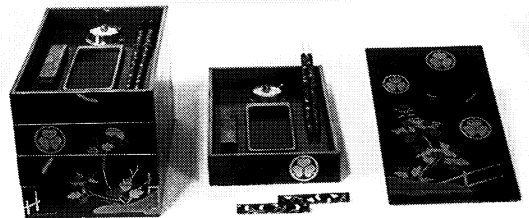
「藤時絵飾提重」は、全体に金と銀で藤の花を描いた華やかなものです。携帯用に食器や酒器を組み合わせた提重は、花見などの行楽に用いられました。

「葵紋散牡丹蝶時絵重硯箱」には、松平家の葵の紋が諸処に散らされ、富貴の花・牡丹と蝶が時絵されています。硯と筆、墨、水滴を備えた硯箱を五段重ねにしたものです。

容保は、戊辰戦争の終結まで混乱と戦の中に身を置かざるを得ませんでした。彼が愛用したという品々からは、容保の「文」の側面が窺われます。



藤時絵飾提重



葵紋散牡丹蝶時絵重硯箱